

ミニワークショップの進め方

平成28年3月

◇ミニワークショップとは

少人数で行うワークショップ型研究協議のこと。

◇ミニワークショップのメリット—少人数で！短時間で！気軽に！—

- 負担感が少なく、教員の主体的な研修が期待できる。
- 短時間で実施するため、時間を有効に使える。
- 授業公開や研究協議の機会が増え、より多くの教員の参加が可能となる。
→全校体制で取り組む意識が高まる。

◇ミニワークショップの活用例

- ・一人1授業等で、授業者と参観した教員が参加し実施する。
- ・研究協議の時間確保や全員の参加が難しい場合に、小グループのメンバー(学年や教科ごと)で集まって実施する。
- ・全校を対象とした研究授業前に、授業の改善を図る目的で同学年内や同じ教科担当内で実施する。

◇小グループ分けの例 ※校内研修組織を基にするとよい。

- A 担当学年や教科が同じ同質のグループ
- B 担当学年や教科が異なる異質のグループ

◇ミニワークショップの進行例(30分バージョン)

内 容	時間(分)
① 授業の気付きを付箋に記入する。	5
② 簡潔に説明しながら付箋をシートに貼る。	5
③ 付箋を関連するもので整理する。→付箋のまとまりに見出しを付ける。→付箋のまとまり同士を矢印等で関連付け、構造化する。※課題・改善策を中心に	10
④ 「今後の授業改善のポイント」を記入する。	5
⑤ 一人一言ずつ振り返りを述べる。	5

◇よりよいミニワークショップにするには

- ・授業参観のときも、ワークショップのときも常に研究主題や研究の視点を意識する。
- ・進め方(参考1)や使用するシート(参考2)について共通理解を図る。
- ・付箋、サインペン、模造紙等の道具は、決まった場所に保管しておく。
- ・30分程度で実施することとし、予定した時間は厳守する。
- ・終了後、研修主任に報告する(参考3)とともに成果物(実物、画像、データ等)の共有化を図る。
- ・ファシリテーターを輪番とすると、教員一人ひとりのスキルアップを図ることができる。
- ・1回ごとに改善を図り、学校独自の進め方やシートを開発するとよい。
(参考1)

(参考2-1)シートの例①

月 日()参加者

研究主題「○○○○○」
 月 日()○校時 教科・単元名等
 研究の視点「△△△△△」

3色(よさ...水色、課題...ピンク色、改善策...黄色)の付箋を使い、KJ法的手法で意見を集約する。

今後の授業改善のポイント[]

(参考2-2)シートの例②

月 日()参加者 _____

研究主題「○○○○○」
 月 日()○校時 教科・単元名等

	△△△△△(研究の視点)	その他
よさ		
課題		

今後の授業改善のポイント

- ※シートは、模造紙の1/2程度でもよい。
- ※シートは長期休業中等にみんなで作成しておくのと、すぐにワークショップが行える。また、シートの使い方についての共通理解も図れる。
- ※短時間での焦点化した協議になるよう、研究の視点を一つに絞り、枠を広くとる。

(参考3)報告書の例

ミニワークショップ報告書

記入者 _____

研究主題「○○○○○」
 授業日時 月 日() 校時

教科・単元名等	
指導者	
学級	年 組
ミニワークショップ実施日 月 日()	
参加者	
今後の授業改善のポイント	
気付き・感想(授業や協議内容について・ワークショップの進め方について等)	